



国見中学校だより

うえのはら

令和5年2月9日 第6号 文責（加藤）



学校教育目標「自ら気づき、考え、判断し、主体的に行動する生徒が育つ学校」

〇 たくさんのご意見ありがとうございました！

去る1月24日に安心・安全メールにて、「成績2期制」「定期テストの廃止」について、意見公募を行いましたところ、短期間であったにもかかわらず、多くのご意見をお寄せいただき、ありがとうございました。早速、30日に開催しました学校運営協議会では、貴重な資料として各委員の皆様へ、検討していただきました。その結果についてご報告します。

まず、「成績2期制」については、各教科の評価を適正に行うためにも、2期生の方が好ましいとのご意見をいただき、来年度から実施することといたしました。

他方、「定期テストの廃止」については、実施することに異論はないものの、いただいたご意見の中には、**定期テスト廃止の理由や定期テストに変わる単元テストについてのご理解が十分ではないのでは**と思われるものが散見され、再度ていねいな説明が必要とのご意見をいただき、保留となりました。



そこで、メール添付の文書と重複する部分もありますが、今回「定期テストの廃止」について、再度ご説明することにより、廃止へのご理解をお願いすることとしました。

これまでの定期テストは、テスト直前の2～3日前的集中的な勉強、いわゆる一夜漬けあるいは徹夜で臨むことも多かったのではないかと思います。体育系の部活動で例えると、大会直前になって5～6時間も練習をして大会に臨んでいるのと同じような気がします。決して無駄ではありませんが、点数を取ることが目的で、結局テストが終わればすっかり忘れてしまっている、という経験が私にもあります。

本来テストは、自分の理解の状況（課題）を知るものです。単元という比較的短い間隔や狭い範囲で実施される単元テストにより課題を見つけることで、その改善への取組も早めに行うことができます。その繰り返しが積み重ねとなり、学力が身につくと考えます。何より大切なことはやらされる勉強、テストがあるからする勉強ではなく、自分にとって必要なこと（課題）は何かを知り、そのための勉強こそが必要と思います。

課題テストを導入することで、教員自身の負担はこれまでよりも増えることが予想されますが、教員にとっても自分の指導と生徒の理解の状況を知る機会が増えることとなり、その後の授業改善にもつなげることができます。



各教科の単元にもよりますが、概ね2～3週間に1度実施される単元テストですから、定期テストよりもむしろ日々の勉強時間は増えるのではないかと思います。将来的には、学校から与えられる、やらされる宿題ではなく、生徒個々に応じた課題に取り組む自主学習が家庭学習の中心になってくれればと思っています。

なお、学校では、昨年9月よりA Iドリルを導入しています。内容は小学校1年生から中学校3年生までの全教科と高校入試の過去問などが含まれており、生徒自身が自分の課題に応じて、タブレットを活用した学習に取り組むことができるようにしています。

順位などがわからないと不安との意見もありましたが、実力テストはこれまでどおり実施しますので、そこでこれまでの取組の成果や新たな課題を知ることができます。

また、出題範囲が広い高校入試に対応できるか不安との意見がありました。ごもっともだと思います。ただ考えてみると、短期間で約3年間分の勉強を集中的にやるのではないので、出題範囲そのものよりも3年の夏からの計画的な取組が重要になってくるのではないかと思います。

前回はふれていますが、やらされる勉強から自分で課題を見つけ取り組む勉強へ移行することに慣れるまで若干時間は要すると思います。しかし、このことにより、自ら気づき、考え、判断し、主体的に行動することができる生徒が育つものと考えます。どうか、ご理解のほどよろしくお願いいたします。